



TITLE:

天界234號"東洋流の星座と星名の索引"補修

AUTHOR(S):

編輯局

CITATION:

編輯局. 天界234號"東洋流の星座と星名の索引"補修. 天界 1940, 21(235): 9-9

ISSUE DATE:

1940-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168105>

RIGHT:

『治天下獲□□□齒大王世，奉□典(?)□人名无□且，八月中，用鐮釜并四尺迺刀，八十練六十摺(?)三寸上好□刀，服此刀者，長壽子孫注(?)，得其(?)恩也，不失其所統作刀者名太加(?)，書者張安也』

問題は、初めの“治天下獲□□□齒大王世”であるが、之れは“治天下^{たぢつ}獲^みやあづはのおほきみ^み宮瑞齒大王世”と読み、反正天皇(皇紀1066—1071)の御代に當ると云ふ(福山敏男氏説)。一字文字が不足して居り、^{たぢひ}多遲比が獲となつて居るが、果して此の説の通りとすれば、始めて曆日を用ひたと政事要略に載つて居る推古天皇12年に先立つこと約200年前のことであつて、八月中に此の刀を造つたことになるが、八月中と云ふのは八月望の頃の意味であつて、八月は鏡や刀を造るによい時期なのである。“治天下”や“八十練”の語は日本式の言葉であつて、殊に、支那古鏡の銘文には“百練”と云ふ文字はよく見られるが、“八十練”と云ふのは見出せないものであると云ふ。そして、此の刀を造つたのは、伊太加と云ふ者であり、此の銘を書いたのは張安と云ふもので、共に當時の歸化人であらう。

法隆寺に在る藥師佛造像記に『池邊大宮治天下天皇，大御身勞賜時，歲次丙午年』とあるが、丙午年は用明天皇元年(皇紀1246)に當る。又、同じ法隆寺の釋迦佛の後光銘に『法興元卅一年，歲次辛巳十二月鬼前^{カミササキ}太后崩明年正月廿二日』とあるが、辛巳の年は推古天皇の29年(皇紀1281)に當る。伊豫風土記に載つて居る大分連見の湯岡碑に『法興六年歲在兩辰』と見えて居るが、此の方は法隆寺のものよりは25年も以前の、推古天皇4年(皇紀1256)に當つて居る。金石文に現はれた干支の古い處は大體上に述べた如きもので、此の以後は可成り數多く各所に殘存して居る。(皇紀2600年九月18日夜)

天界 234 號 “東洋流の星座と星名の索引” 補修

會員野尻抱影氏より親切なる御注意あり、尙ほ其の他の點について再考すべき點あり、下の如く補修する。先づ、正誤として、“コロク”(胡籙)は“ヤナグヒ”と訂正する。之は和名である。又、“ラテイ?”(羅堰)は“ラエン”と訂正。尙ほ、“シ 矢”を加ふ。

又、校正の誤りとして、“テンヤク?”と“フシツ?”との?を取り去る。読み方について、“參”はシン、“天乙”はテンイツ(“天一”と同じ星なり)と読む人多きも、姑く俗流を採る。又、“九河”はキュカとすべきか?。又、“天皇大帝”はテンワウタイテイ、“右馬寮”はウマリョとすべしとの説あり。尙ほ昔から漢學者には、“虎賁”をコホン、“造父”をゾーホ、“傳說”をフエツと読む癖あり。(編輯局)